

令和元年度 特別推進研究 審査結果の所見

研究課題名	分子組織化に立脚した革新的医薬品の分子設計
研究代表者	長崎 幸夫（筑波大学・数理物質系・教授）
研究期間	令和元年度～令和5年度
科学研究費委員会 審査・評価第一部会 における所見	<p>本研究は、制ガン機能基をもつ高分子などから球状、梯子状、編目状などの様々な構造を分子組織化で構築し、新たな医薬「自己組織化薬」を創出しようとするものである。</p> <p>機能分子の自己組織化を通じ、これまでの薬物送達（ドラッグデリバリーシステム（DDS））を超える革新的創薬を目指す挑戦的研究計画であり、新規の薬物開発とともに、医工連携に基づく、化学、生物学、医学などに広がる新たな学術の展開が期待される。</p>